土地利用型農業者の皆様へ

スマート農業技術を導入して効率化を目指しましょう！

生産性向上や規模拡大、こんなお悩みありませんか？



収量が低いほ場がある一方で、
倒伏してしまったほ場もあって
肥料の加減が難しい

効率化のため、ほ場を合筆したが、
地力ムラが大きくなってしまった

肥料代が高いから、
適正施肥で最大の効果を出したい

田植え時期の人手が足りない…
即戦力となる人材を見つけるのは難しい





就農して、経験の浅いうちは
トラクタでの位置合わせが分かりにくい

家族だけでこなせる面積に限界がある

ほ場の枚数が増えてきてしまって、
水管理が大変だ…



スマート農業技術で解決しませんか？

こんなスマート農業技術があります！

衛生画像の生育診断と可変施肥田植機による経営改善





実証	内容	結果
長野県農業試験場（R6）	ザルビオによる可変施肥（コシヒカリ）	収量＋4.3～4.6%増加
福島県県南農林事務所（R5）	可変施肥田植機の活用（水稲15ha）	肥料使用量 慣行比21%減 収量は同等
下都賀農業振興事務所（R7）	地力マップによる可変施肥（コシヒカリ）	ゾーン設定どおりの精密施肥 慣行並の収量を確保

ほ場の状態に合わせて
増収効果や肥料削減効果が見込めて
低コスト生産や品質向上につながります！
生育ステージ予測で適期を逃さず防除もできます！

衛星画像の生育診断により、ほ場ごとの生育状況をリアルタイムで把握可能。
ほ場ごとの地力・生育のムラを地図化。
生育マップに基づく「可変施肥」で、肥料のムダ削減が可能。

ロボットトラクタによる作業性向上＆時間短縮

ロボットトラクタの耕起・代かき作業時間(時間/10a)

立地条件	地域	慣行	スマート農機	削減率	備考
平場	北陸	0.37	0.23	38%	耕起（2台協調）
平場	東海	0.60	0.48	20%	耕起（2台協調）
中山間	関東	0.46	0.28	39%	耕起（2台協調）
中山間	中国	0.46	0.34	28%	耕起（2台協調）
中山間	関東	2.85	2.29	20%	代かき（2台協調）
中山間	四国	2.69	1.38	49%	代かき 荒代：2台協調 本代：直進アシスト
平均				32%	

※出典：農研機構スマート農業実証プロジェクト「スマ農成果ポータル」

- 有人-無人協調作業で作業時間を３割削減
- 未経験者でも精度の高い作業が可能



※　田植機やコンバインもロボット化されています

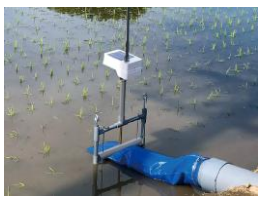
自動給水システムによる水管理の省力化

自動水管理システムの作業時間(時間/10a)

立地条件	地域	慣行	スマート農機	削減率
平場	東北	0.29	0.05	82%
平場	東北	0.53	0.11	78%
平場	北陸	0.13	0.03	76%
中山間	関東	7.70	1.30	83%
平均				80%

※出典：農研機構スマート農業実証プロジェクト「スマ農成果ポータル」

- 水位センサー情報をもとに、自宅等から遠隔操作で開閉可能
- 多数のほ場も遠隔管理で大幅な省力化



写真：（株）Farmo　提供

技術関係問合せ先　芳賀農業振興事務所経営普及部　電話：0285-82-3074
事業関係問合せ先　〃　企画振興部　電話：0285-82-4720